

研究課題	一人一台端末を活用した探究的な学習による日立市の未来を担う人材に必要な力の育成
副題	～未来の日立市づくりを探究する総合的な学習の時間（まちづくり学習・国際交流）をとおして～
キーワード	探究的な学習
学校/団体名	公立日立市立助川小学校
所在地	〒317-0065 茨城県日立市助川町 2-15-1
ホームページ	https://hitachi-sukegawa-e.edumap.jp

1. 研究の背景

今日、我が国では「Society 5.0」「VUCA」の予測困難な時代が到来し、社会環境は急速に変化し続けている。このような時代における学校教育の在り方として学習指導要領（平成 29 年告示）では「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓ひらき、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と示している。さらにこの具現化のために中央教育審議会の次期教育振興計画答申（令和 5 年 3 月 8 日）では「児童生徒が主体的に課題を自ら発見し、多様な人と協働しながら課題を解決する探究学習」を基本施策として示している。これを受け教育課程企画特別部会（令和 7 年 5 月 22 日）では「総合を中核としつつ各教科等も含めた形で探究的な学びを一層重視する」と示しており、これからの時代において総合的な学習の時間の充実は重要な役割を果たすと考える。

学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編では「問題の解決や探究活動を行うという総合的な学習の時間の特質を十分に踏まえた活動を展開する」と探究的な活動の必要性を示している。その探究的な学習を実現するためのプロセスとして学習指導要領（平成 29 年告示）解説総合的な学習の時間編では「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」と示され、一連の学習過程を繰り返していくことで「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」ことが求められている。

本校が位置する日立市は、日立鉱山（現在の ENEOS）や日立製作所等の産業の発展により、明治後期より栄えてきた工業都市であるが、2005 年以降、基幹産業の衰退や少子化の影響などにより、急速に人口減少が進んでいる。年間で 3000 人に及ぶ人口減少が進む日立市にとって、持続可能なまちづくりを進めることは、喫緊の課題となっており、持続可能な日立市を創造する次代の担い手を育成することが急務である。

昨年度の児童実態調査において「意欲的に学習に取り組んでいる」「話を聞き、考えようとしている」の項目が共に 90%を超えており、授業には意欲をもって取り組み、教師や友達の声に耳を傾け真剣な態度で授業に臨んでいる実態があった。さらに、学校行事における司会進行の様子からは、企画力・実行力の高さも伺える。自らの行動を正し、一所懸命に活動に取り組んでいる。一方で学習における調査では「疑問や困り感を友達と共有できない」「自分の意見や考えを話すことが苦手」等と回答する児童が多い。さらに「地域に貢献したい」と回答した児童は約 55%と、授業における学習意欲よりも低い数値となっており、協働性や地域に貢献する意識が

十分でないことがわかる。このことから、児童の学習意欲の高さを日立市の課題に向けさせ他者と協働しながら探究的に学習する活動は、日立市の課題に一石を投じるだけでなく、これからの時代を生き抜くために必要な課題を探究するための資質・能力を養うことにつながると考える。

以上のことから、総合的な学習の時間において、「まちづくり」をテーマに自ら課題を見だし、課題を解決できる人財を育成することを目的とし、本研究主題を設定した。

2. 研究の目的

故郷の「資源」を生かし子供たちが創造する探究的な「まちづくり」学習をとおして、日立市の未来を担う頼もしい人財を育成する。そのために、本研究では、一人一台端末を活用し、地域に貢献しようとする態度を養う学習の在り方を明らかにする。

3. 研究の経過

月	内 容	外部機関・施設
4	校内研修①「探究的に学習する力について」 校内研修②「全体計画について」	
5	校内研修③「探究的な学習スタートアップ研修会」	講師：東京未来大学（鈴木亮太）
6	校内研修④「学習ロードマップと進捗状況の共有」 国際理解授業（5・6年） 公園探検学習（1年） まちめぐり学習（2年）	講師：独立行政法人国際協力機構 （笠井久美子）
7	校内研修⑤「探究的な学習相談会」 助川海防城跡学習会（6年） Panasonic オンラインサポート①	講師：東京未来大学（鈴木亮太） 講師：助川コミュニティ推進センター（中村雅利）
9	校内研修⑥「年間指導計画の更新」 福祉体験授業（3年） 環境学習授業 SDGs ラジオ（4年） 国際交流授業（5年） Panasonic オンラインサポート②	施設：日立市社会福祉協議会 講師：株式会社ケシオン（片山啓輔） 講師：NPO 法人インパクト（職員3名）
10	国際交流活動・座談会（5年）	講師：NPO 法人インパクト（職員3名）
11	Panasonic オンラインサポート③	
12	マイクラフト学習会（6年） 日立の未来のビジョンをもとう（6年）	講師：那須町教育委員会（星野尚） 講師：日立市役所（職員6名）
1	校内研修⑦「人材活用リストの作成」	
2	学習発表会 校内研修⑧「探究的な学習実践報告書の作成」	
3	Panasonic オンラインサポート④ 校内研修⑨「次年度に向けて」	

【資料1】研究の経過一覧（抜粋）

4. 代表的な実践

(1) 探究的な学習を深めるための職員研修の充実

本校では本年度より校内研究のテーマを「探究的な力を育成する学習の在り方～地域と連携したまちづくり学習を通して～」と設定した。教科を総合的な学習の時間、生活科と定め、情報の共有と検討を行った。以下、研修の一部を抜粋して記載する。

① 探究的に学習する力（つけたい力）について（2025.4.22）

学習指導要領（平成 29 年告示）解説総合的な学習の時間編で示されていた「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の一連の内容をもとに児童に身に付けさせたい力を明確に設定した。

問題発見力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題や問題を見つける力 ・興味をもって様々な視点から見る力 ・質問を通して探究の出発点を見つける力
情報収集力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を効率的に集めることができる力 ・信頼できる情報を見つけ出す力 ・メディアを活用する力
分析・考察力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理、分析して意味を見つける力 ・批判的な思考で情報を評価する力 ・様々な情報から新しい視点を見つける力
表現・発信力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや発見をわかりやすく伝える力 ・資料を作成する力 ・会話や手紙、メールなどでコミュニケーションをとる力
実行力	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたアイデアや計画を実行に移す力 ・目標を設定したり、スケジュールを管理したりする力 ・学びを深める力

【資料 2】 探究的に学習する力

② 全体計画について

本年度から新たに日立市に目を向けた「まちづくり」をテーマに学習を進めるにあたり、総合的な学習の時間の全体計画を練り直す必要があった。そこで、5つの探究する力を育成するための探究課題を学年ごとに設定し、学習内容の検討を行った。

6 学 年	探究課題「日立の未来を創造しよう～持続可能なまちづくりのために～」
	「マインクラフトを活用した創作活動によるまちづくり」をテーマに、まず日立市について知るために、様々な分野で日立を支える方、まちづくりを進める方を外部講師に迎え、どのようにして持続可能な未来のまちを創っていくのかについて学ぶ。
5 学 年	探究課題「ともに歩む未来を描こう～外国人とともに創るまちづくり～」
	「外国人と共に創るまちづくり」をテーマに、まず現状を知るために、国際交流や留学・移住している外国人支援に関わる方、さらに外国人の方を外部講師に迎え、どのようにして外国人と共に創るまちづくりを進めているのかを学ぶ。

4 学 年	探究課題「未来のたねを集めよう～公園等遊びと緑のあるまちづくり～」
	「公園等遊びと緑のあるまちづくり」をテーマに、まず現状を知るために、緑化・公園整備に関わる方を外部講師に迎え、どのようにして公園や緑のあるまちづくりを進めているのかを学ぶ。
3 学 年	探究課題「あったかハートを広げよう～みんなえがおのまちづくりのために～」
	「障害者や老人にやさしいまちづくり」をテーマに、まず現状を知るために、老人・障害者福祉に関わる方を外部講師に迎え、どのようにして誰にでもやさしいまちづくりを進めているのかを学ぶ。
2 学 年	探究課題「まちのキラリをみつけよう」
1 学 年	探究課題「ぼくたちがっこうのひみつたんけんたい！～助川小をもっと知ろう～」
1 学 年	「学校やまちのよいところを知る」をテーマに、まず学校や近くの公園、身近な習慣など、よいと思う点を探し、自分たちのまちの自慢できることについて学ぶ。

【資料3】学年ごとの探究課題とその学習内容

③ 探究的な学習スタートアップ研修 (2025.5.1) 及び探究的な学習の相談会 (2025.7.22)

学習内容が定められ学習を始めるにあたり、東京未来大学より鈴木亮太氏を招聘し、探究の重要性や探究的な学びの中心となる総合的な学習の時間の本質について学ぶ研修会を開催した。

また、学習を進めるにつれて出てきた課題や困り感を学年ごとにまとめ、相談できる場を設定した。鈴木亮太氏を再度招聘し、あらかじめ提出しておいた質問を講習会の形で答えていただいた。ブロック毎に時間を設定し、今後の学習展開を直接相談できる時間を設けた。これらの研修により、学習展開の見通しをもつことができた。



【資料4】スタートアップ研修の様子

(2) 故郷の「物的・人的な資源活用」を生かした授業実践

① 市の現状把握









個人で探究課題を設定するにあたり、日立市の現状を把握する必要がある。そこで、「よさ」と「課題」に焦点を当て、調べ学習を行った。

ア インターネットによる調べ学習

日立市の現状を知るために、市のホームページ等を参考に調べ学習を行った。調べた内容は思考ツールを用いて記録した。また、調べた内容を共有するために、Microsoft Teams のアプリケーション Whiteboard を用いて KJ 法でまとめた。

イ 現地調査や講師招聘による市の現状把握




インターネットによる情報収集だけでは具体的な現状把握に限界がある。そこで、実際に市内をめぐることで課題を見出したり、有識者を招聘して新たな情報を得たりした。

学年	学習活動	施設・GT	活動の様子
1	「助川城址公園探検」 学区内の公園を観察することで、学区に関心を持ち、地域のよさに気付く。	助川城址公園	
2	「学区めぐり」 学区内にある施設をめぐり、地域の方と交流しながら地域のよさに気付く。	兎平郵便局 兎平交番 日立市役所 銀座通り商店街 等	
3	「福祉体験学習」 児童に福祉体験をさせることで、福祉の重要性や必要性を理解する。	社会福祉法人 日立市社会福祉協議会	
4	「SDGs ラジオ」 企業による出前授業を活用し、SDGs に関する喫緊の環境問題について理解する。	片山 啓輔 氏 (株式会社ケシオン)	
5	「国際理解授業」(5、6年) 国際協力に関する実践を聞くことで、様々な国の歴史や文化を理解する。	笠井 久美子 氏 (独立行政法人国際協力機構)	
	「交流授業」 在日外国人との交流を通して、相手の国の文化を知るきっかけをつくる。	ヴァキリ マーク 氏 谷内 グレース 氏 デマレ ダニエル 氏 (NPO 法人インパクト)	
6	「助川海防城跡学習」 海防を目的に設置された拠点について学び、助川地区の歴史を理解する。	中村 雅利 氏 (助川コミュニティ推進会)	
	「市職員講師招聘授業」 市役所の職員を招聘し、様々な視点から日立市の現状を理解する。	保健福祉部 教育委員会 都市建設部 産業経済部 共創プロジェクト推進部	

【資料5】学習活動の記録（一部抜粋）

② 学習のまとめ

収集した情報を整理・分析し、自身の設定した個人課題に対するまとめの活動を行った。ここでは、第6学年が行ったマインクラフトによる学習のまとめを一部紹介する。

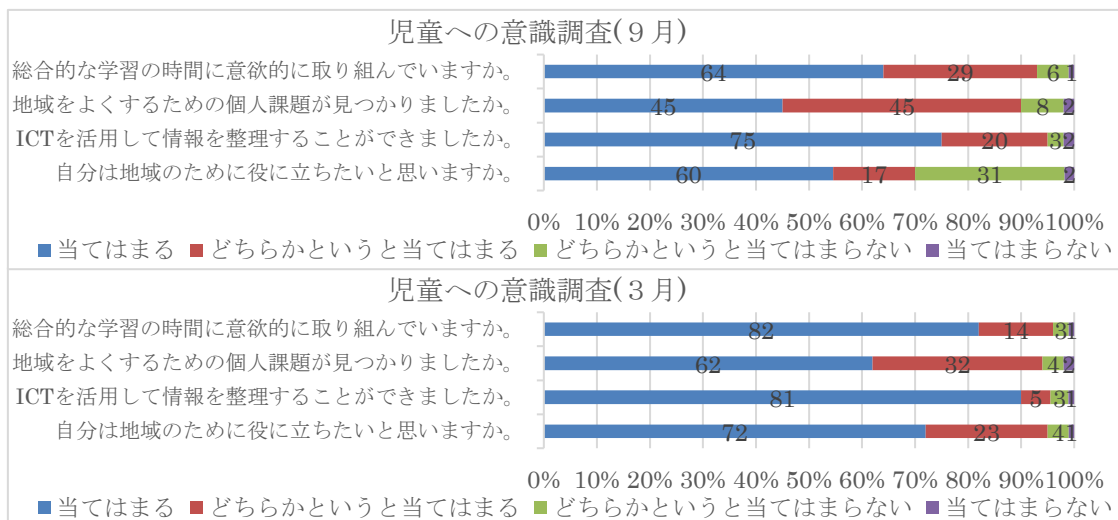
児童	個人課題	心配な市の課題	提案する解決策	作成したワールド
A	移住者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少 ・市の収入減 ・廃校の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃校を改装し、移住者の住居として再利用 ・移住者を増やし、納税額の増加を図る 	
B	職業支援	<ul style="list-style-type: none"> ・市の労働者率が50%未満 ・人口の社会減 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率の高い駅の開発 ・子供を預けられる施設の増加 ・就職センターの設置や商店の誘致 	
C	障がい者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・市の障がい者数は約6万人 ・障がい者の就職が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業体験による安心できる場の設定 ・雇用の範囲を広げる ・周囲の意識の改善 	

【資料6】児童によるまとめ（第6学年児童一部抜粋）

5. 研究の成果

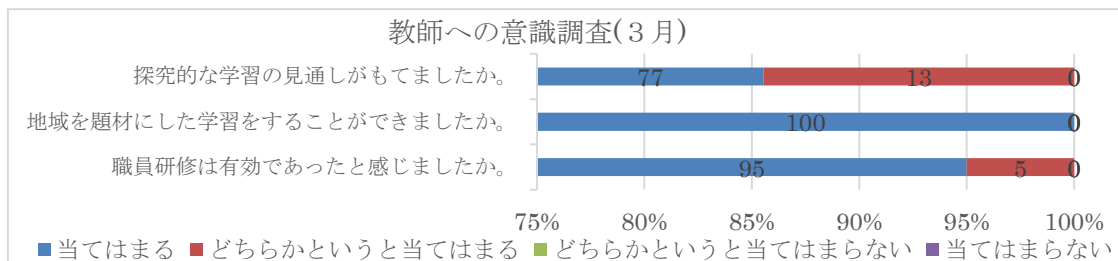
(1) アンケート調査による意識調査の結果

① 児童に対する意識調査の結果



【資料7】児童に対する意識調査の結果

② 教師に対する意識調査の結果



【資料8】教師に対する意識調査の結果

③ アンケートから分析する成果

ア 児童

今まであまり意識していなかった地域の課題に興味関心をもち、さらに意欲的に調べようとする児童が 90%を超え、ほとんどの児童が個人課題を設定することができた。一連の学習活動を通して、地域に貢献しようとする態度が昨年度の約 55%から約 95%へと増えており、故郷を担う態度の育成につながった。

イ 教師

職員研修の充実により、探究的な学習への不安感や困り感を払拭し、学習の見通しをもつことができた。また、講師招聘による授業や地域での学習を通して、全ての学年で故郷の資源を教材化することができた。

(2) 児童の探究的な学習の成果

1年間の学習の記録として、6年生の児童 C のワークシートや作成したマインクラフトの画像を一部抜粋し記載する。

資料9 児童Cのワークシート(5月)

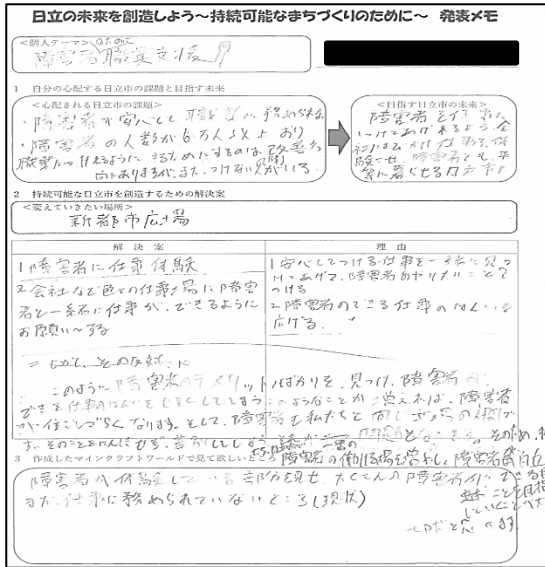
資料10 児童Cのワークシート(6月)

ワークシート【資料9】は、探究的な学習を始めた5月のものである。インターネットによる調べ学習を行い、日立市の「よさ」と「課題」についてウェビング図にまとめたものだ。この当時は、市の課題として医療や福祉の充実を挙げている。

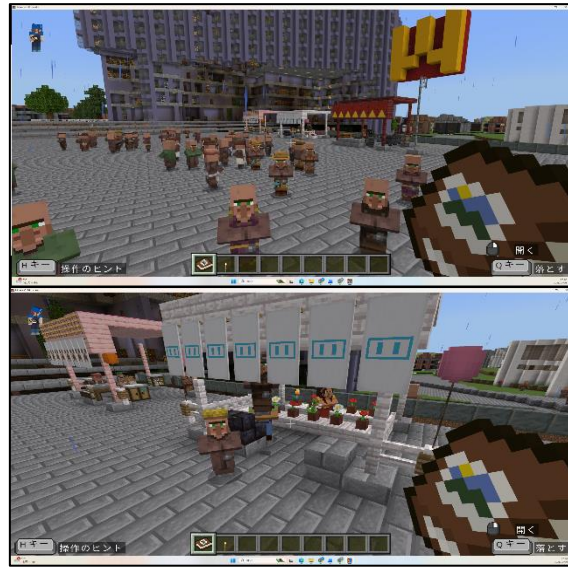
現地調査や有識者による講話を通して、多様な考えに触れた。特に国際理解授業【資料10】の中で「人々の選択肢を増やす」ことに重要性を感じた。次第に日立市の「障がい者」に着目しはじめ、市に約6万人以上いると知ると、人材の有効活用について考えるようになった。

具体的な案を考えていく中で、【資料10】のように思考を整理した。そして、自身の想像する日立市の未来をマインクラフトで表現し、学習発表会で保護者の前で発表した。マインクラフトによる3Dの表現は、思考を可視化する上で有効なツールとなった。

これらの活動により、成果として探究的に学習する力が身につけてきていると言える。



【資料10】児童Cのワークシート(2月)



【資料11】児童Cが作成したワールド

6. 今後の課題・展望

今後の課題としては、まず次年度の学習計画が挙げられる。探究的な学習を推進するにあたり、6年間を見通して段階的に力をつけていくためにさらに綿密に計画する必要がある。また、本年度招聘した講師についても、次年度の課題に合うとは限らないため、人材についても考えたい。

さらに、学習を進めるにあたり、より地域に根差した資源の教材化が必要であると考え。日立市は日立製作所等の企業城下町であるが、学習における連携が弱い。日立製作所と日立の連携による「共創プロジェクト」の活用など、日立市に根差した民間企業との繋がりを強化したい。

7. おわりに

本研究は周囲への問題提起を終え、諸関係機関の皆様にご協力いただき実践を始めた段階であり、2年間の研究計画を終えたわけではない。そのため継続して研究を進めていく必要がある。今後、より地域に根ざした企業との連携を意識し、個々の課題解決を表現する機会をとおして、成就感を高め、地域のためになったという達成感をさらにもたせていきたい。

8. 参考文献

- ・「小学校学習指導要領」 文部科学省 2017
- ・「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」 文部科学省 2017
- ・「小学校学習指導要領解説生活編」 文部科学省 2017
- ・「次期教育振興基本計画について(答申)」 中央教育審議会 2023
- ・「質の高い探究的な学びの実現(情報活用能力との一体的な充実)」 教育課程企画特別部 2025
- ・「令和7年度 学校教育指導方針」 茨城県教育委員会 2025
- ・「2023 日立市の統計 Statistics of Hitachi city」 日立市 2023
- ・「令和7年度 日立の学校教育 未来を拓く人づくり」 日立市教育委員会 2025
- ・「今こそ総合 教師が育つ、子どもが育つ」 鈴木亮太 大日本図書 2020